

「大塚の富士見坂 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

海外旅行からの帰途、飛行機の窓から富士山が見えると、心底ほっとするものである。「あー、富士山はちゃんとあった、日本は沈没してなくてよかった・・・」と、妙に安心するのだ。富士山は、日本最高峰であり、地質学的にも火山学的にも火山洞窟学的にも重要な火山だ。しかしそれだけではなく、我々日本人にとって、非常に特別な山なのだろう。



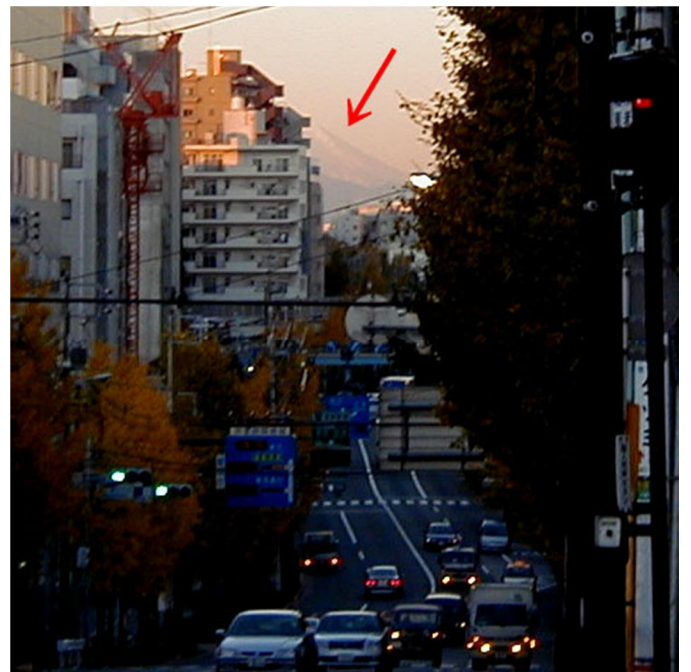
高層マンションに住んでいる子どもは別として、東京に住んでいながら、富士山を一度も見ることがないという子どもは意外にも多い。私は、文京区の富士見坂に、何度か子どもたちを連れて行ったことがある。下の写真はその時の様子で、大塚三丁目交差点の、三井住友銀行の前の歩道から、確かに富士山が見えた。



子どもたちは、文京区で、しかも地上から富士山なんか見えるわけがない、多くの子どもは予想する。理由(根拠)は「遠いから」がほとんどである。



国土地理院の地形図閲覧サービスでは、2点間の直線距離を正確に計測できる。大塚三丁目交差点から富士山頂(最も手前の火口壁)までの距離は99.43km。ちょうど100kmとみてよい。確かに遠い。気象観測の視程の基準には、誠に都合の良い対象物である。



この写真を撮ったのは平成11年なので、もう17年も前である。当時でも、山体の左半分はマンションに隠され、富士山の半分しか見えなかった。それでも、「富士見坂から富士山が見えた」のだ。今は右側もビルに隠れて、完全に見えなくなってしまった。